“Traditional Mathematics of East Asia and Related Topics（Takebe Conference 2014）”のご案内

江戸時代の和算家（数学者）建部（彦次郎）賢弘は幕府の右筆の三男として寛文四年六月（1664年）に生まれ 2014 年には生誕 350 周年を迎えます．関（新助）孝和の一番弟子で，円周率の計算においては累遍増約術を開発し，今日，数値計算の分野におけるリチャードソン補外，ロンバーグ法として知られる方法を百年以上前に得ていました．また，オイラーにも先立って逆正弦関数の自乗の弦の長さに関する展開式を得ていました．初めは，甲府藩士として職を得，宝永元年十二月（1701 年）に幕臣となり，江戸幕府の六代，七代，八代将軍に仕え，特に，八代将軍徳川吉宗の相談役として，改暦事業，国絵図改訂のために尽くしました．数学の研究についての建部賢弘著作「綴術算経」は徳川吉宗に献上されたと言われています．

数学通信第一巻第一号に梶原壌二先生の「和算家　建部賢弘」という記事にもありますが，この数学者の名を冠して，日本数学会は日本数学会賞建部賢弘賞を 1995 年に創設し，若手数学者を顕彰してきました．

2014 年は ICM2014 も韓国ソウルで開催される年であり，建部賢弘生誕三百五十周年記念事業を行うのに相応しい年であり，建部賢弘の数学的業績及びそれに関連した数学史的な話題を中心として，国際研究集会を開催することは意義深いことと考え，森本光生先生（四日市大学関孝和数学研究所）に組織委員会委員長に就いていただき ICM2014 のサテライト・コンファレンスとして提案し採択されました．

この研究集会の正式名は**“Traditional Mathematics of East Asia and Related Topics”**，通称は**“Takebe Conference 2014”**で 8 月 25 日から 30 日午前まで，お茶の水女子大学理学部棟で開催されます．四日市大学関孝和数学研究所の協力を得て，URL：http://takebe2014.seki-kowa.org/　に情報が掲載されており，随時更新されますのでご覧ください．参加費は段階的になっており 5 月 31 日までは 15,000 円で，それ以降は 20,000 円となりますので，早めに登録されるのがお得です．参加費にはプロシーディングス代も含まれ，刊行後に送付される予定です．

2008年には関孝和没後300年記念として小松彦三郎先生（東京大学名誉教授）を組織委員会委員長として国際数学史会議が東京理科大学で開催され，そのプロシーディングス**“Seki Founder of Modern Mathematics in Japan”**（Springer，2013）が刊行されていますが，今回の国際会議はそれを引き継ぐものでもあります．日本数学会からは開孝和三百年祭記念事業に資金的にも補助していただきましたが，今回の国際会議も後援し，補助金いただけることになっておりますので，会員の皆様にお知らせする機会をいただきました．ご参加をお待ちしております．

元関孝和三百年祭記念事業実行委員会委員長・建部賢弘国際会議 2014 国内組織委員長
真島　秀行（お茶の水女子大学）